

ディープ・インサイダーが説明：トランプに最も近い助言者たちの裏切り

故意に何もせず、無駄な時間を稼ぎながら、不正選挙を隠ぺい
——犯罪者は例の者たち——トランプの行動の謎が解ける

SOTN 編集者注：下に述べられた、Patrick Byrne (Overstock 経営者) によるインサイダー説明を、一語でも疑う理由はない——ここには、チーム・トランプの大いに疑わしい行動と非行動に関して、選挙日から大統領就任日までに、本当は何が起こったのかの顛末が述べられている。

世界の歴史で最大の選挙盗みを暴露しようとして、完全に失敗し、明らかに無益だった試みの間に、何が現実に行っていたかについて、この特筆すべきインサイダーの説明を聞いてみると、その結論はただ一つしかありえない。トランプの選挙の敗北は、初めから最後まで、意図的に起るよう仕組まれていた！

よりはっきり言えば、ただ一つの争えない結論だけがあった。すなわち、この選挙を、バイデンや民主党によって、トランプから完全に盗ませるようにした、この同じ悪辣な陰謀団は、その固い証拠をどれほど積み上げようと、トランプには決して投票結果を覆させないようにする、あの銀行屋どもの一族だった。ついでながらそれは、詐欺師のバイデンでなく、トランプ大統領が、現実には8千万票を獲得したことを示す、否定できない証拠があっても、同じことだった。

しかしどうしてこんなことが起こったのか？

いったい誰が——内部から——この向こう見ずな、信じられない、鉄面皮な、そして全く比べるものもない、自暴自棄の、民主党による選挙強盗の見え見えの隠ぺいを、やらせたのだろうか？

あの同じポイント・マン、2001年9月11日に、ニューヨーク市に対する、米国家スポンサーによるテロリスト攻撃を隠ぺいした男——彼がその男である！



ジュリアーニがこれほどの汗をかくのも不思議ではない

しかし公平に言って、ルーディ・ジュリアーニは、緊密な、ホワイトカラーの、マフィア的な共犯関係を、このアメリカの「世紀の犯罪」に対して持っていた。

このトランプの最も緊密で法的な相談役こそ、POTUS をあらゆる機会に、はっきり間違った方向へミスリードした人物——Pasquale Anthony “Pat” Cipollone——であろう。

次に述べるのは、ドナルド・トランプの長い間の友人、ルーディ・ジュリアーニによる巨大な裏切りの、氷山の一角にすぎない。ジュリアーニが、ニューヨークの市長で南部地区の米弁護士だったときに、ハザール・マフィアに利用されて、NY市の5つの行政区のシチリア・マフィアを撲滅したように、彼はまた、9・11 テロ攻撃として知られる、大犯罪を隠ぺいするのに利用された。<http://themillenniumreport.com/?s=khazarian+mafia>

これは、元 NY 市長が、トランプの選挙の法的優先性のすべてを台無しにするように、モサドによって罾をかけられたことを示すものだろうか？

<http://stateofthenation.co/?p=50444>

しかし、ルーディによって監督された、おそらく最も破局的な犯罪騒動は、この裸の2020大統領選挙盗みの、かつて前例のない隠ぺいだった。これによって、法の原則というものが、かつてのアメリカ合衆国から、永遠に破壊されてしまった。同様に、アメリカの選挙システムも、選挙人のやり方も、完全にかつ修復不能に壊されてしまった。…それはちょうど、あの同じ許されぬ犯罪者たちが、2001・9・11のツイン・タワーでやったのと同じ

である。言い換えると、アメリカの人民は、選挙結果を再び信ずることはない——政府のいかなるレベルにおいても信ずることはないだろう、ということである。

ここで確実に言えることは、トランプは、自分がずっと裏切られていたことを、知っていたということである。彼は、彼のチームの誰が裏切り者であるかを、正確に知っていた。彼はまた、この謀反劇全体の背後にある、国家の役者が誰であるかを正確に知っていた。トランプの子供たちもまた、裏切りのことを知っており、だからこそ彼らは、選挙後の民主党との戦争を通じて、ほとんど沈黙していた。最後に、トランプ大統領は、これについては、全く何もできないことがわかっていた。ハザール・マフィアが去れと言えば、去らなければならない。TPTB（絶対権力者）が、なぜトランプには勝たせようとしなかったのか、その理由はここにある。<https://stateofthenation.co/?p=49410>

N.B. 下に引用されている“Patrick Byrne”は、トランプ大統領が、自分のチームは、彼を全面的に失敗させようとしていたことを、知っていたことを、はっきり示している。したがって、この物語全体から、合理的に引き出すことのできる唯一の結論は、次の深く潜入する調査報告だけである。

選挙心理作戦 2020：よく隠された裏物語

<https://stateofthenation.co/?p=49410>

さてここに、パトリック・バーンの、高度に放射能をもつ、彼の記事「DJT（トランプ）は、いかにホワイトハウスを失ったか？」からの直接の証言がある。下の絵は、元 Overstock 経営者兼創設社によって書かれた、上に言及された暴露記事のタイトル頁と、そのカギとなる抜き書きである。

(下につづく)

696



Patrick Byrne

A concerned citizen who has been hunting the oligarchy and Deep State since 2004.

How DJT Lost the White House, Chapter 1: All the President's Teams (11/3 – 12/23)

January 27, 2021 · 33 min read



(下につづく)

次の抜き書きには、Patrick Byrne が直接語る物語の、最後の4パラグラフが含まれている：—

ある時点で、私は、大統領がいかにもそこに巻き込まれているかを覚った。周期的に、ある凡庸な男とルーディ・ジュリアーニは、ホワイトハウスを訪れて、彼にブリーフィングを行っていた。いやまったく、冗談じゃないぜ——この男はまったく役に立たず、私の同僚たちは、この男とこれ以上一分でも一緒にいるより、さっさと逃げ出したい、などと話していた。そしてこの76歳の爺さんは、ろくにeメールも送れない人で、少なくとも夕刻には酔っ払っていたが、この2人が大統領に向って、ひどいサイバー犯罪の話とか、思いついたことをいろいろ話していた。最初私は、これは下手なジョークなのだと思った。しかしそうではなかった。市長とこの凡庸な男は、この世界史的な緊急事態に取り組むといミッションをもった、究極のポイント・マンたちなのだった。

フリンと私は気分が悪くなった。我々の間でつぶやくことは、ほとんど「いったいなぜ、我々はこんなことをしているんだ？」という問題だった。大統領の子供たちは席を外し、仲間外れのようにあり、元気を出そうとしているとも、引退を計画しているとも見えた。我々は、大統領のチームから、どんなはっきりした戦略をも、どんな行進命令をも見出すことができず、ただ、ある組織がぐるぐると迷っており、まさに溶けかかっているという感じだった。この取り柄のない男については、我々は特別の細工をして、我々の「がんばれベアーズ」を叫ぶ人たちと、彼が接触しないようにしなければ、彼らが逃げてしまうと思われた。そして、このすべてのしくじりは、76歳の老紳士によってリードされていた。この人は、私自身を含めてあらゆる人々に愛されていた。しかし彼は、歴史の中で最も悪辣なサイバー泥棒ともいえるものに、6週間もかかわっていながら、それ以上には何ひとつ、首尾一貫した会話を持つとはしなかった。フィラデルフィアで、211人もの死者が投票したって聞いたかね？ 死んだ人間がだよ！ 彼らが投票したんだ！？ ジョー・フレイジャーの父親が投票したんだ！ 聞いたことがあるかね？！！

それから我々は、なぜ自分たちはこんなことをしているのか、と気づき始めた。アメリカのブランドは「選挙」だ。それが我々のやり方だ。我々が国家的な選挙をしたところ、それが、驚くほど正確だが戦略的なやり方で、危険にさらされたということらしい。それは、外国の手が関わっていることを示している。その一部は、中国の心理作戦で、わが国を乗っ取るつもりかもしれない。そうなったら再び自由はないかもしれない。馬鹿げたアメリカの選挙など、もうなくなるかもしれない。それこそが、我々が持ち場を離れない約束をした理由だった。我々は互いに、何度もそれを確認した。

そしてそれこそ、クリスマスの数日前に、マイケル・フリン將軍と、シドニー・パウエルと、私とが、今こそチャンスをつかむべきだと決心した理由である。なんとかうまい策略によって、我々は、「ジェダイ」(スターウォーズの人物)のマインド・トリックで、ホワイトハウスに入

りこみ、大統領執務室に忍び入って、大統領の注意を我々自身でつかみ取ろうとしていた——招待状もなしに。

この手記の続きは：How DJT Lost the White House

<http://stateofthenation.co/?p=50425>

結論：

この高度に情報に富んだインサイダーの物語から引き出せる、冷静な結論は、ただ一つしかありえない。

ハザール・マフィアが支配している！

(The Khazarian Mafia rules!)

(以下、この記事の結論部分は省略)

[Gretchain 訳注]

疑問を残したままで退任してしまったトランプ大統領について、欲求不満の残った多くの人々は、これを読んで、少なくともその謎の一部は解けるであろう。ただ、私を含めて、結束が固いと思っていた「チーム・トランプ」の中で、ルーディ・ジュリアーニの疑惑が浮上するとは多くの人が考えなかったであろう。しかし、このチームの一人だったパトリック・バーンの、この手記の文章を読めば、そこに疑問は残らないと思う。

トランプ大統領については、「万事休す」という表現も当たるかもしれないが、実は、彼は最初からすべてを知っていて、その上で冷静に行動していた、という SOTN の評価は正しいと思う。しかし、だからと言ってトランプが「諦めた」のではないことは、はっきりしている。私は、トランプとトランプ支持者が、この真実を知ることによって、なおさら強力に、かつ賢明に行動するものと思う。残った「ハザール・マフィア」の分は、いずれ翻訳するつもりである。